

温泉地におけるネットワークの意義  
— 温泉地域の現状と取組みについての学術調査 (3) —

金井雅之 (山形大学)

1. はじめに

温泉地における旅館同士の関係は“ライバルであると同時に同志でもある”と表現できる。個々の旅館の経営という観点からすれば、温泉地を訪れた客には隣の旅館ではなく自分の旅館に泊まってほしいであろう。しかしこうした競争のあまり各旅館が自分たちの利益しか考えなくなれば、温泉地全体としての集客に支障をきたす恐れがある。つまり、温泉地全体の活性化という観点からすれば、旅館同士は協力しなければならない。

ところで、社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）論によれば、ネットワークには「橋渡し型 (bridging)」と「結束型 (bonding)」という2つのタイプがある<sup>1)</sup>。前者は、相対的に独立した集団間を結ぶ紐帯（つながり）は、新しい情報やビジネスチャンスをもたらすゆえに、個人や集団の業績達成において有利に働くだらうと予測する。後者は、相対的に独立した集団内部での紐帯が密であることは、情報の流れをよくしたり規範への同調圧力を生みだしたりするゆえに、協調行動を促進し集団全体のパフォーマンスを向上させるだらうと予測する。

そこで本報告では、個々の旅館の経営および温泉地全体の活性化において、集団間を結ぶ紐帯（橋渡し型）と集団内の紐帯（結束型）が、どのような効果をもつかを検証する。

2. 調査の方法と回収状況

	旅館調査	組合調査
調査対象	長野・山形・群馬・新潟で、旅館組合への加盟旅館数が10施設以上ある温泉地の、組合に加盟するすべての旅館	長野・山形・群馬・新潟で、旅館組合への加盟旅館数が10施設以上ある温泉地の、すべての組合
調査時期	2007年1月23日～2月20日	2007年1月23日～4月25日
調査方法	送付・回収とも郵送による自計式質問紙調査	
調査対象数	1,515軒	56温泉地
回収数(率)	779軒 (51.4%)	51温泉地 (91.1%)

3. 個々の旅館の経営におけるネットワークの効果

旅館調査のうち標準宿泊料金が1万円以上の旅館（392軒）を抽出して、個々の旅館の温泉地内外との付き合いの有無がその旅館の経営状態（客数と売上の増減）にどのような影響を与えるかを分析した<sup>2), 3)</sup>。温泉地内部との付き合いは経営改善に負の効果をもつに対し、温泉地外部との付き合いは正の効果をもつ。一方、温泉地内部でのネットワークの凝集性（イベントへの参加の度合い）は、その温泉地の平均的な経営状態に有意な効果をもたなかった（相関係数 0.057, n.s.）。

	業界内	業界外
温泉地内	【-】 地域内旅館に経営改善相談	【-】 地域内他業種に経営改善相談
温泉地外	【+】 単独で他温泉地への視察	【+】 単独で外部講師を招聘

このことは、個々の旅館の経営においては結束型ではなく橋渡し型のネットワークが有益であることを意味しており、経営という文脈においては、温泉地の旅館同士はたしかに“ライバル”であることを示唆している。

#### 4. 温泉地のまちづくりにおけるネットワークの効果

一方、各温泉地でまちづくりのための独自計画を策定しているかどうかを左右する重要な要因は、源泉管理組織とまちづくりのための地域一体組織があるかどうかであることを、前回の大会で組合調査のデータを用いて報告した<sup>4)</sup>。

今回は旅館調査のデータを温泉地ごとに集計した変数を用いて、さらに分析を加えよう。まちづくりのための独自計画を策定しているか予定している温泉地（38 か所）が、今のところ計画はない温泉地（10 か所）と比べて、5%以下で有意に平均値が高かった変数は、つぎの8つに整理できる。1, 2, 4 は温泉地内での緊密なつきあい、5~8 は特に女将ネットワークの同質性を示唆している。

1. 旅館が、温泉地活性化についての相談を、地域内旅館または行政とおこなうこと
2. 旅館が、地域の祭りやその準備に多く参加すること
3. 旅館が、施設改築や雑誌広告といった資本力に関連する経営努力をおこなうこと
4. 旦那が、地域内の旅館または他業種またはその他の人と飲食をおこなうこと
5. 女将の、大学の同窓会への参加が少ないこと
6. 女将が、地元生まれであること
7. 女将の、年齢が似ていること
8. 女将の、学歴が似ていること

このことは、温泉地のまちづくりにおいては結束型ネットワーク（凝集性）が有益であることを意味しており、温泉地全体の活性化という文脈においては、旅館同士はたしかに“同志”であることを示している。

#### 5. まとめ

温泉地の旅館が“ライバルであると同時に同志でもある”というのは正しい。前者は個々の旅館の経営に着目した場合で、温泉地外とのネットワークが有用である。後者は温泉地全体のまちづくりに着目した場合で、温泉地内部での緊密なネットワークが重要である。

#### 注・参考文献

- 1) Putnam, R. D, 2000, *Bowling Alone: The Collapse and Revival of American Community*, New York: Simon & Schuster.
- 2) 金井雅之, 2008, 「経営におけるネットワーク資源の効果の比較」第45回数理社会学会大会報告(2008年3月16日, 成蹊大学).
- 3) 金井雅之, 2008, 「旅館経営における社会関係資本の効果——仲介性と閉鎖性の比較」籠谷和弘(編)『市民活動の活性化支援の調査研究—秩序問題的アプローチ—』平成17~19年度科学研究費補助金基盤研究(B)(1) 研究成果報告書: 印刷中.
- 4) 金井雅之, 2007, 「温泉地におけるまちづくりへの取組み状況——温泉地域の現状と取組みについての学術調査(2)」日本温泉地域学会第10回研究発表大会(2007年11月12日, 長野県高山村).